令和２年度　大阪府立難波支援学校
第一回学校運営協議会

１．日時　　令和２年7月１７日（金）　１３：３０～１５：００

２．場所　　大阪府立難波支援学校校長室

３．次第
（１）開会
（２）委員紹介
（３）学校経営計画について
「令和２年度　学校経営計画及び学校評価」による説明
（４）カリキュラムマネジメントについて
「シラバス作成やキャリア教育の取り組み」による説明
（５）その他
（６）閉会（会長挨拶・校長挨拶）

４．協議内容（各委員からの主な意見）
◎学校経営計画について
・「安全安心な教育環境の整備」に関して、現在コロナ禍ということで、地域の学校で教職員のコロナ感染があった。発熱してから陽性判明までに１０日間かかり、その間に２日間出勤されていた。もし、難波支援学校でも教職員の感染や児童生徒に感染のあった場合、どのような対応が求められるのか課題である。迅速な対応をお願いしたい。

・「提言ＢＯＸの設置」に関して、組織が大きくなると管理職の理想と教職員の現実とのギャップが出てくる。会議で自分の意見がなかなか言えなかったり、学校アンケート（教職員）の結果でマイナスに受け止めている教職員のパーセンテージが高かったり、気がかりになっていたが、直接には言えなくても提言ＢＯＸを設置したことで自分の意見やアイデアを伝えられる環境を作られていることが、とても良いことだと感じた。

・「保護者への教育活動の周知を積極的に行う」ことに関して、学校での状況を保護者に知ってもらうことはとても大事なことである。保護者は学校での教育活動が見えていないから、学校の状況や子どもの状況とは違った要望がでてくる。しっかりと周知の取り組みをお願いしたい。

・「家庭の困り感に寄り添い、迅速な関係諸機関との連携に努める」ことに関して、学校

としてどのような対応ができるのか、学校が要となって関係諸機関とどのように結び付けていくのか。とても大変なことかも知れないが、先生方の業務の効率化も図りながら是非取り組んでほしい。

◎カリキュラムマネジメントについて

・今年度から小学部にも児童会ができた話があったが、全国的に見ても（特に知的の支援学校の）小学部の先生方のキャリア教育についての意識が低い。キャリア教育を共通理解したうえで、小学部の段階から教職員の意識を高め、日々の教育に取り組んでほしい。

・小、中、高一貫教育について、是非取り組んでほしい。個人的な意見ではあるが、小、中、高一貫教育は中学部の存在が一番大きいのではないかと思っている。小学部、高等部がどうでも良いということではなく、中学部が小、中、高一貫教育の要であることを教職員皆でしっかりと認識して教育に取り組んでもらいたい。

・小、中、高一貫教育について、重度の児童生徒への教育をどのように取り組むのか。小学部から入学する児童は比較的重度の児童が多いと思うが、その教育をどのようにおこなっていくのか気になるところである。児童生徒の力を最大限引き出せるように、卒業してからの仕事にもつながっていくように、変化はなかなか見えないかもしれないが教職員には是非頑張って取り組んでもらいたい。中度、軽度の児童生徒への教育は、難波支援学校での取り組みは非常に素晴らしいと感じている。卒業後どのような児童生徒を育てるのかをしっかりと考えて取り組んでほしい。

・シラバスが作成できても、授業改善をおこなうまではなかなか難しいのではないか。多様な児童生徒が在籍している中で、これに取り組むことは大変難しい。ある支援学校では以前からシラバスに着手しており、作成できていても授業改善までは結びついていない。この大きな悩みに是非先生方には頑張ってもらいたい。

◎その他

・子育ては学校だけではなく、地域と、家庭と、学校が連携して育てていくことで、初めて子どもたちの充実した生活を送ることができるのだと改めて感じた。

◎意見書に関して

「児童生徒の私物の管理について、先生方の意識を高めてほしい」との意見が寄せられる。

・家庭からの持参物について引き続き確認を十分におこない、管理を徹底していく。